

に於ける対立も多少少なから各組合が此の傾向を安撫し、（各組合の）之を改めざる故に今日吾々が為すべき任務は組合指導精神の確立にある。先づその前提として指導力の統一（指導力の統一を計らねばならぬ）を現実に指導し行く要あり。是れは組合員大衆の意志の結合を代表して之を現段階の正しき認識の上に導くこと指導と訓練をなし得るものであり、而も組合員大衆には批判の自由を其の信託とそれの統制力との間接の密接なるを言ふものであつて大衆の名を利用して常に分裂的言評行動を為すものを断固として排撃する、吾が総聯合が日本労働組合会談に加盟せしむ此の指導力の統一が確かなる指導精神を生み以て更に日本労働段階に即した戦線統一を行はんとするものであつて吾等の組織に主張する労働組合主義を活用せんと欲するものである。

二、今や日本ブルジョア階級は民衆に対してデモクラシーを乞へ得ない。否、乞へべき矛盾を持つた。従つて労働運動に対して極めて反動的政策を行ふであらう。然も尚その反動政策を打ち破つて血々どりに戦ひ取らねばならぬ。我々の要求を持つて居る。

自主的労働組合法、最低賃銀法、労働母子扶助法、失業保険法、労働者長老

年金法等の獲得健康保険法、工場法、労働者災害扶助法等の改正である。今日此の低位な組織率以外に持たぬ日本労働運動に於て先づ考ふべきは未組織大衆の獲得である。外多くの極めて意識水準の低い大衆を獲得する為には吾等は上述のものを獲得して未組織大衆に與へねばならぬ。それは一には大衆行動の強さを示標すると共に一には大衆の生活悪化を最低限度に喰ひ止めんとする運動である。

「食ふに困れば大衆は右翼化する」と或者は云ふ。それは自然發生的な反抗さへあり得ない、真に組織的なガツクリに闘争は予想出来るものではない。

三、國際労働會議はブルジョア階級の欺騙誘惑である。是るをよめぬから、其所に於ける若干の取り極めに於て彼等は共闘化せんとする階級対立を中和せしめん争を目的の一にして居る。吾等殊更に同僚崗を重視する必要を認めない。

四、ブルジョア階級が益々反動的に化しあらゆる資本家的組織と抱合して露骨に労働組合切崩し、争議彈圧の暴挙に出でつゝあるは最近特に著しい。又將來益々此の傾向は甚だしくなつて行くであらう。是れは労働組合の組織内容等も又それらに対応して政策が施されなければならぬ、大衆動員細組織がそれである。